



議論を重ねていいものを



加藤 博徳 議員

環境アセスメントは

県が説明した

問

① JR貨物車両基地移転に伴い、関係する環境影響評価の説明は、いつ、誰が実施したのか。

② 1日の車両通過数が99本から162本、63本増加する想定になっているが、町内にある踏切の遮断時間の大幅な増加が見込まれるが、環境影響評価書

では、松山地区の遮断時間の表記はあるが、北伊予地区の表示がない。どのように対応するのか。

産業建設部長

① 案内は、平成19年3月号の広報まさきで行い、内容は、大気、騒音、振動、水質、動植物などを調査し、そ

の結果について説明を行い、平成19年3月23日、愛媛県が主催し準備書のできた段階での開催のみで、伊予小学校で、伊予市と松前町の関係する住民を対象に開催し26名の住民が参加した。(この時点で評価書はできていない) 評価書の作成後は評書の公告縦覧を行った。平成20年2月5日から3

月4日まで閲覧した結果、2名の縦覧で県に報告した。
② 車両基地・貨物駅が完成すると、朝夕のラッシュ前後にも回送列車が基地に出入りし、昼間も通過する列車は増加する。列車のダイヤが決まってしまうので、細かいことはわかっていない。

議会の議決に対して不親切

御指摘は、しっかり受けとめる

問

① 地方自治法第96条の議決に必要な事業と金額は。

② 自由通路の議決は、平成25年9月の議会で道路認定をしたのが議決か。議決前の協議書にある「全額松前

町が負担する」記述は議決違反ではないか。

産業建設部長

① 予定価格5千万円以上の工事及び製造の請負だ。自由通路は、製造の請負ではなく、設計の委託で、こ

の案件には、該当しない。

② 平成25年7月24日、JRと松前町が協議した分は当然議決前で、平成24年に基本設計を行い、平成25年6月補正で詳細設計の予算承認した結果、今後事業に着手することで、町道認定

をしたと記憶している。その後の10月から詳細設計の着手に移っており、手順としては何も問題ない。